

2021年
9月号



7月末、卒業試験の忙しい合間を縫ってインタビューに答えてくれました。

コロナ禍のなかで迎えた卒業

ラオスでは、2021年の4月から新型コロナウイルスの感染が急速に広がりました。当初感染は都市部が中心でしたが、その後タイなど海外に出稼ぎに行っていた労働者たちの帰国に伴い、徐々に感染が地方にも広まっていきました。

支援している奨学生のいるヴィエンチャン県も例外ではありません。6月には、ポンサイ中等学校、サカ中等学校のあるポンホーン郡でクラスターが発生し、郡内はロックダウンになりました。県下の学校は4月末以降一時閉鎖となり、再開しても近隣で感染者が出るとまた休校するという繰り返し。通常5月末から6月に全学年で実施する進級テストは、7月下旬まで延期され、さらに今年は特例で、最終学年の4年生（前期中等課程）と7年生（後期中等課程）のみの実施となりました。

このような厳しい状況のなか、3校15名の奨学生のうち、ヒンフープ中等学校で3名、サカ中等学校で2名、ポンサイ中等学校で2名が7年生の卒業を迎えました。卒業にあたり7名の奨学生にインタビューしました。

ヒンフープ中等学校

Sさんは、両親と離れ祖父母と暮らす苦学生。この一年間、ソーシャルメディアに興味を持ち勉強に励みました。「本当は、中国に勉強に行きたかった

ヴィエンチャン県 ポンサイ・サカ・ヒンフープ 3中等学校で

奨学生7名が
無事卒業！



「ラオスのこども」にあたたいご理解をお寄せいただき、マンスリーサポーターとして活動を支えてください、心より感謝申し上げます。

みなさまのご支援により、15名の奨学生が本年度の学業を修了し、うち7名が無事卒業となりました。

ご支援は、子どもたちが未来をつかむ励みとなっております。引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

代表 チャンタソン インタヴォン

けど、コロナで行けなくなってしまったので、就職しようと思っている。でも今は、就職するのもなかなか難しい」と話してくれました。

Lさんは、お母さんが癌の治療中。お母さんのためにも、医師になることを目指してしています。学校では生物学の勉強を頑張り、家計を支えるため土日はゴム工場で働きました。「図書館では、生物学の本を読んだり、宿題を調べたりしました」。

Pさんは、学校からかなり離れた村に住んでいたため、一時は校長先生の家から学校に通っていました。「中国語と英語を勉強するために大学へ行こうと思っているけど、大学のオンライン入試がまだ実施されないので待っているところです」と教えてくれました。



ヒンフープ中等学校 新しくできた図書館



サカ中等学校

Aさんは、両親が離婚し、現在は叔母さんのもとで暮らしています。得意科目の数学を頑張りました。「卒業したら、獣医学に興味があるので、お金があれば農業や酪農の勉強をしたい。お父さんは兵士になって欲しいみたいだけど」と語ってくれました。

Sさんは、1～2月に実施された郡の統一テストのラオス語で、1番の成績を取りました。「放課後や夜は、家の仕事や電気代がかかるため勉強できないので、学校にいる間に集中して勉強しました」。卒業後は、ヴィエンチャン県の技術大学へ特待生として進学することが決まっています。

□ 今回奨学生にインタビューをしてみて、彼らの暮らしや学校生活、そして進路までも、新型コロナウイルスが大きな影響を及ぼしていることが分かりました。

先生からは、どの学校も一時閉鎖になって、授業が出来ずまだ修了できていない単元があること、家での学習項目を用意するなど、対策を取っているが充分でないことも聴きました

それでも奨学生たちが口を揃えて言っていたのが、「奨学金がもらえたおかげで、学費のことを心配する必要がなくなり、勉強に集中できるようになった」ということです。今までは、補習費用や通学バス代を捻出するために学習時間を削り働いたり、滞納で肩身の狭い思いをしていたそうです。また、当会が開設支援した図書館を、学習に積極的に活用していた様子もうかがえました。

卒業までの約半年間、コロナの影響を受けながらも奨学金により学業を続けることができた生徒たち。これまでの学校生活で身につけた知識や経験が、少しでも今後の糧となること、そして彼らの明るい未来を願います。



ポンサイ中等学校

Mさんは、農業を営む両親の収入は乏しく、お母さんの機織りを手伝い、作った織物を売って、家計の足しにしていました。「うちは大学に行けるだけのお金はないので、職業訓練をして、お金をかけずに就職できる進路を選びたい」と話してくれました。

Nさんは、幼い頃母を亡くし、父と叔母、弟と暮らしています。郡のラオス語能力試験では4番の成績を収めました。図書館ボランティアにも熱心に取り組みました。「卒業後は、医療の道に進みたいけど、もし医学部に行けなかったら、軍隊に入ろうと思ってる」と答えてくれました。



ポンサイ中等学校で

ラオスのこども マンスリーサポーター通信 2021年9月発行

(認定) 特定非営利活動法人ラオスのこども 〒143-0025 東京都大田区南馬込 6-29-12, 303
TEL&FAX 03-3755-1603 Email: alctk@deknoylao.net <http://www.deknoylao.net>

奨学生たちを支えるため、さらにマンスリーサポーターの協力を必要としています。

ぜひお知り合いをご紹介ください。事務局より資料などをお送りします。

マンスリーサポーターへのご寄付は、税金の控除を受けることができます。